

# ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

## 新規実践の11校が内定

### 道研究大会、9月函館で

#### 2013年度 推進協総会

北海道NIE推進協議会(高辻清敏会長)の2013年度総会が5月11日、札幌市中央区の北海道新聞社で開かれた。新規の11校を含む42校が新聞協会と道推進協の支援を受けて実践指定校として活動に取り組みことを確認したほか、「NIE懇談」で札幌琴似工業高の佐藤啓貞教諭(NIEアドバイザー)らが、授業実践などを報告した。関連記事は2面に。

総会には、道内小中高の教諭ら合わせて約60人が参加。来賓の道教育庁学校教育局教育課普通教育

の部長が「教育は未来を作る仕事であり、その一端を担うのが新聞。NIE実践の新しい一ページを開く年度にしましょう」と呼びかけた。承認された13年度の主な事業では、地区セミナーを6月21日の釧路市を皮切りに道内9カ所で開催。2面の表参照。7月31日に第4回夏休み親子新聞教室、9月11日には函館・渡島セミナーを兼ねた第18回北海



新規校を代表してあいさつする根室市立北斗小の程野教諭(手前)

道NIE研究大会を、それぞれ開くこと決めた。新規指定校も紹介され、出席した9校の担当者を代表して根室市立北斗小の程

野純貴教諭が「実践事例を積み上げ、(NIE活動の)研さんに励みます」とあいさつした。新規校は次の通り(かつこ内は実践代表者、敬称略)

- ▽札幌市立北園小(吉野令欧奈)
- ▽札幌市立寒東小(志村知子)
- ▽根室市立北斗小(程野純貴)
- ▽赤平市立平岸小(柳谷直明)
- ▽美瑛町立明徳中(佐藤雅輝)
- ▽鹿追町立瓜幕中(掛水成幸)
- ▽札幌市立常盤中(喜田貴美枝)
- ▽札幌市立中央中(古畑理絵)
- ▽札幌市立平岡中央中(三上久代)
- ▽函館市立亀尾中(平沼和彦)

当で8月2日、NIEの第3回稚内・宗谷セミナーが開催されます。関係各位の並々ならぬ熱意を感じています。顧みまずと1回目の実践発表は、小学校1校だけでしたが、2回目のセミナーでは、地元の小・中・高校から発表があり、教育に新聞を!の広がりを実感しました。



### NIEの活動に期待 稚内市教育研究所長 高井 徳広

活用の記述も多く見られ、児童生徒の主体的な学習に欠かせない「調査」、「調べ学習」の最たる場であると思えます。

や資源の循環を図り、一人一人が環境保全に主体的に取り組み持続可能な社会の構築ができる資質・能力を育てる」とあります。

「社会への関心を高め文字や文章を勉強しながら考える力や物事を判断する力、新しい知識を身に付ける」、「今日の課題である、環境、国際理解、福祉、情報などに有効に対応する力を身に付ける」とし、それぞれの問題を総合的に扱っており関連性把握の有意性が高いと思えます。

21世紀は新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる分野での活動基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」とあるといわれています。新学習指導要領では「言語活動を重視し児童生徒の読解力・思考力・表現力の育成を図る」としています。特に強調してい

るのが「各教科等における言語活動の充実」です。児童生徒一人一人に身に付けさせたい力として①基礎的な知識や技能②課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力③主体

が、知識・技能を「使える力」にまで高めるためには教科横断的な学びが必要不可欠です。環境教育を例にとるとその目標は、「様々な環境問題の解決に向けて有限な地球への負荷を最小限にとどめ、生態系の維持

社会科学、生命・自然・科学技術の学習は理科、環境に優しい生活の学習は家庭科、技術家庭科で指導されますが、「教科間連携・体系化」には、時間を要するものと思えます。その点、NIEの目的は

13年度 N I Eセミナーの日程

| 名称     | 開催期日   | 場所         |
|--------|--------|------------|
| 釧路     | 6月21日  | 釧路市立春採中    |
| 稚内・宗谷  | 8月2日   | 稚内市立図書館    |
| 北広島・石狩 | 8月7日   | 石狩教育研修センター |
| 北見・林-㇏ | 9月6日   | 北見市立大正小    |
| 函館・渡島  | 9月11日  | 函館市立赤川中    |
| 滝川・空知  | 10月19日 | 滝川市役所      |
| 苫小牧・日高 | 未定     |            |
| 旭川     | 12月6日  | 旭川市立永山小    |
| 帯広・十勝  | 2月8日   | 十勝毎日新聞社    |

道N I E推進協 2013年度役員  
(6月25日現在) =敬称略

- 顧問 立川 宏・北海道教育委員会教育長
- 同 町田 隆敏・札幌市教育委員会教育長
- 会長 高辻 清敏・日本N I E学会理事
- 副会長 西崎 毅・道教育庁学校教育局長
- 同 金山 正彦・札幌市教委学校教育部長
- 同 豊島 義明・北海道N I E研究会会長
- 同 陰元 正二・北海道十勝新聞教育研究会会長
- 同 広瀬 兼三・北海道新聞経営企画局長
- 幹事 新貝 晃一・日本経済新聞札幌支社編集部長
- 同 倉沢 章夫・時事通信社札幌支社長
- 同 尾山 教仁・苫小牧民報札幌支社長
- 同 田村晋一郎・道新N I E推進センター長
- 監事 平野 達夫・読売新聞北海道支社編集部次長
- 同 玉置 薫・釧路新聞札幌支社長

道N I E推進協総会

道N I E推進協の総会で行われた「N I E懇談会」で札幌琴似工業高の佐藤啓貴教諭は、日本大震災から2年目に当たる今年3月11日付の全国各地の新聞(コピー)を持ち寄り、各紙が伝えた記事の内容を紹介した。

全国の新聞で実践紹介

佐藤教諭は、自ら集めた道内6紙(北海道、釧路、十勝毎日、苫小牧民報、室蘭民報、函館)や、沖繩タイムスなど合わせて25紙の1面記事をホワイトボードに掲示したほか、前岩手県知事の増田寛也氏らが執筆した「復興と『まちづくり』(毎日新聞)をはじめとする3・11に関する新聞コラム(コピー)を資料として出席者に配布。学習材として活用していることなどを報告した。



またN I Eアドバイザー5人が、参加者の質問に答える形式で実践経験を話し

8月に夏季研修会  
道N I E研総会

道内の教員で組織する北海道N I E研究会(会長・豊島義明札幌市立定山溪中学校長)の定期総会が5月11日、道新本社で開かれ、事業計画などを決めた。2013年度は研究視点に①新聞を通して言語活動の充実を図る②多面的なものの見方や考え方を育み、他者とかかわり合う場を大切にするの2点を掲げた。事業計画では8月7日に夏季研修会(会場・石狩教育研修センター)、9月11日に北海道N I E研究大会(同・函館市立赤川中)、来年1月7日に冬季研修会

(同・北海道新聞社)の開催をそれぞれ決めた。

新会長に陰元校長  
十勝新聞教育研総会

北海道十勝新聞教育研究会は4月27日、定期総会を帯広市立西陵中で開き、新しい会長に芽室町立上美生小学校長の陰元正二校長を選出した。

本年度も全十勝小中学生新聞スクラップコンクールを主催するほか、共催後援事業として全十勝小・中学校・学校・学習新聞コンクール、中学校かべ新聞十勝地区コンクール、新聞づくり講習会をそれぞれ実施する。

また、全国新聞教育研究大会(大阪府)やN I E全国大会(静岡県)の参加と、道内の各種セミナー・研究会に提言者、助言者などへの会員の派遣を決めた。

道N I E推進協事務局長が交代

「確かな情報」 重い新聞の使命

新事務局長 田村 晋一郎



いる写真も見つかりました。

インターネットの世界では、さまざまな流言飛語が飛び交っています。2012年夏のロンドン五輪、サッカー3位決定戦の際に、韓国入選手が「独島はわが領土」というプラカードを掲げ、IOC憲章に反する行為としてメダルの授与が保留されました。その直後、「プラカードを手渡したのは、趙重衍(チョ・ジュンヨン)韓国サッカー協会会長(当時)だ。なぜ日本は抗議しないのか」という書き込みが写真付きで飛び交いました。しかも「マスコミは圧力に屈して事実を握りつぶしている。ネットで拡散してほしい」という注文付きで拡散し、知人もそれを信じて拡散し、私のところにもまで情報が届きました。

問題の写真をみると、プラカードを渡した男性はサングラスをしていて、なるほど趙会長に似てはいました。でも、私がインターネットでさらに調べると、その男性がサングラスを外して



北海道NIE推進協議会が毎年発行している実践報告書「教育に新聞を」の2012年度版が出来上がった!!写真!!

## 12年度 実践報告書が完成

NIE実践校に認定され、一定期間新聞を無料提供された41校の担当教諭が取り組んだ、実践例や新聞活用例などが掲載されている。

A4判、173ページ。希望者には無料提供する。申し込みは当協議会事務局(北海道新聞社内)011・210・5802へ。



日本新聞協会は、本年度から高校でも実施している新学習指導要領に対応した教師用ガイドブック「新聞活用の工夫提案 NIEガイドブック高校編」II写真を発行した。

### 一部授業を動画で閲覧

A4判104ページ。国語、地理、生物、数学、保健体育、情報、総合、進路指導などの教科領域を網羅しており、教科書に沿った新聞活用方法を掲載。例えば、保健体育の「薬物乱用問題を

## NIEガイド 高校編発行

考えよう」では、記事を使って脱法ハーブの危険性と規制に向けた動きも紹介している。巻末には資料編「新聞おもしろQ&A」をつけたほか、水越伸・東大大学院教授が新聞の可能性

また発行 済みの小学校 編、中学校 編のガイドと異なり、執筆した一部教諭の授業を動画で見られるのが特徴。一般の希望者にも1部350円(送料別)で販売する。問い合わせは当協議会事務局011・210・5802へ。

気に入った新聞記事を切り抜き、読んだ感想をコンパクトにまとめる授業が、NIE実践指定校2年目の札幌市立三角山小学校(秋山晴人校長)で行われた。5年生全員が国語の教科書に登場する单元「新聞を読もう」のオリエンテーションとして取り組んだ。女子の一人は「新聞にはいろんな記事が載っていて、おもしろいなあと感じました」と笑顔で話した。(葛西信雄・北海道新聞NIE推進センター委員)

# 「新聞っておもしろい」

# 好きな記事で楽しく学ぶ

北海道NIE研究会事務局長で、同校NIE実践代表者の檜克博教諭が5月23日、多目的室に5年生51人を集めて行った。授業のタイトルは「おもしろい記事を見よう!」。スポーツや社会、政治、歴史など幅広いジャンルの情報に触れることができる、新聞の特長を体験させることも



札幌・三角山小



2種類の新聞を約1カ月かけて保存。この日の授業では、全員に1部ずつ配布した後、檜教諭が「新聞の中から1本だけ自分が気に入る、みんなにも呼んでほしいと思う記事を選びましょう」と呼びかけた。子どもたちは30分ほどの時間をかけ①記事を見つけて②その記事をハサミで切り

り抜く③台紙にはりつけ記事を読む④選んだ理由と自分の感想を短い文章にまとめる⑤の、四つの作業に臨んだ。ピックアップされた記事は「米で巨大竜巻」「スカイツリー1周年」「長嶋さん、松井さんに国民栄誉賞」「アライグマ激増 脅威」のほか、読者の意見、4コマ漫画、広告特集、映画情報などさまざま。カラー写真と作り方が載った料理記事を選んだ女の子は「お母さんと一緒に作って、お母さんに『おいしいよ』って言われたかった」と感想を書いた。また、1面題字下のインデックス「ヒトラーの毒味デックス」に「95歳の独女性が告白」に着眼。「(女性は)よく毒味役を引き受けたなあ」と思った「ヒトラー」という人が独裁者だったこと、菜食主義者が予想した以上に新聞に興味を持ってくれた」とした上で、「この1年間、始業前などを使って継続して新聞を読ませ、子どもたちの視野が広がるように導いていきたい」と話していた。

# 道内高校新聞

## ナウ

7

### 蒼海時報

(函館水産高)

津軽海峡の対岸、東北地方をおそった未曾有の震災は新聞部にとっても人ごとではなかった。生徒会のいち早い動きを伝える3月17日付の「被災者に募金しよう！」を皮切りに、数度にわたって特集を組んだ。

震災体験者でもある佐藤さんへの取材は復刊第150号の記念として企画、暮れも押し詰まった12月22日付で紙面化された。インタビュー直前まで井上君は「震災時のできごとを思いださせてしまう

## 頑張ってる仲間を応援

のではないかと逡巡したが、結果的には杞憂だった。空腹に加え不安や恐怖心で眠れなかった避難所生活や、「被災者は」十分頑張っているのに、これ以上頑張れと言われるとつらい」という佐藤さんの本音も引き出すことができた。

顧問の山本かおり教諭は「震災に関する取材執筆を通じて自分たちの果たす役割、高校新聞の使命について考えてくれた」と教え子の成長を見守る。今年4月の第176号では、立地す

部。復後は常に数人という小所帯ながら、長期乗船実習や水産クラブ研究発表会など水産高校ならではのイベントも毎年大事に取り上げている。

12年度もわずか4人の部員で、号外を含め計21回の蒼海時報(B4判2頁)を発行した。全道高校新聞コンクール(手書き・ワープロ部門)で優秀賞を受賞、全国高校新聞紙面審査では奨励賞に輝き、今年7月末の全国高校総合文化祭(長崎県)への出場資格を獲得

る北斗市が作成した新しい地震・津波のハザードマップの特集を組んでいる。

道内4校の水産系高校の中で、唯一活動している新聞

し、井上君と部長の須藤彩さん(3年)が参加することになっている。

13年度は新たに迎えた阪内佑太君、山田佳奈さんの計4人の部員で精力的に活動している。山本教諭は「取材した生徒や地域の方々からの反応が励みになっているよう。頑張っている部員は、私にとつての『宝』です」と目を細める。

1935年(昭和10年)創立の「函館水産学校」が前身。学校新聞「蒼海時報」は56年に創刊、翌年に全道学校新聞コンで佳作、60年には全日本学校新聞コン(当時)で佳作1位を射止めている。85年9月を最後に休刊したが、94年11月に復刊第1号を発行している。

最終日の26日の分科会では、同県での実践を中心に17の公開授業・意見交換を設定。さらに、特別分科会では関口修司・東京都北区立滝野川小学校校長を基調提案者とする研究討議「朝の時間に新聞をNIEタイムの試み」も開く。



7月25、26日に静岡で全国大会

「学び」発見！ふじのくから『やさしいNIE』をスローガンに、第18回NIE全国大会静岡大会が7月25、26の2日間、静岡市で開かれる。

日本新聞協会が主催、静岡県NIE推進協議会と静岡新聞社が主管する。25日は午後1時の開会式に続いて静岡県立静岡がんセンタ―総長の山口建さんによる記念講演「子どもたちへのおくりもの」、パネルディスカッション「NIEのすそ野を広げるために」を行う。

取材して良いのかどうか迷いました。新聞部副部長の井上俊希君(3年)は、東日本大震災が起きた2011年暮れのインタビューをこう振り返った。

相手は1学年上の佐藤博長さん(当時、機関工学科2年)。あの「3月11日」は、在籍していた宮城県水産高(石巻市)の造船所見学会のさなかに被災。乗車していたバス運転手の機転で高台に避難して難を逃れ、翌年4月に函館水産高に転入していた。

新聞部発行の「蒼海(そうかい)時報」は、約10年の休部期間を経て1994年11月に復刊。看板コラム「不立文字(ふりゆうもんじ)」を除く横組みレイアウトと、伝統の「頑張っている『函水生』」を応援する「新聞で校内に風を起す」という編集方針を一貫して守り続けている。



4人の部員と顧問の山本かおり先生(中央奥)。家族的な雰囲気の中で編集作業を行う函館水産高の新聞部

### 編集後記

○…<エ>英知の結集が新聞だと自負しています。<ヌ>温もりに満ちた記事もあふれていて、それを日々提供しているのが当協議会加盟の新聞、通信社合わせて12社です。

○…<ア>数多のニュースの中からえり抜かれた記事は、新学習指導要領でしっかりと「活用」が明記され、児童生徒たちの教材として生かされています。<イ>色んな先生が、工夫しながら授業の中に取り入れ、活動の屋台骨を支えてくれています。

○…<イー>好い加減な人間ですが、今号から「通信」編集の担当者になりました。記者生活三十余年。取りえは馬齢と表裏をなす、ただ長いだけの経験年数しかありませんが、「エ・ヌ・ア・イ・イー」普及の一助を担いたいと、考えています。(葛)